

震災を契機とした地域交流団体における長期的活動要因に関する分析 Analysis of Factors about Long-term Activities of the Local Community Established by the Earthquake Disaster

○友野 望* 坂田寧代**
TOMONO Nozomi, SAKATA Yasuyo

1. はじめに

1995 年兵庫県南部地震（以下、「兵庫県南部地震」という）以降、多発する地震や平成 30 年 7 月豪雨のような豪雨災害が発生すると大規模であるほど避難所や応急仮設住宅の設置が急がれる。兵庫県南部地震では地震以前のコミュニティは維持されず応急仮設住宅への入居が進められたことが問題とされた¹⁾。この教訓を踏まえ 2004 年新潟県中越地震（以下、「中越地震」という）や 2011 年東北地方太平洋沖地震では地震以前のコミュニティ単位での避難が進められた。しかし、全ての被災地で従来のコミュニティを維持できるわけではなく避難生活や集団移転がコミュニティや自治組織の再編の必要性を高めている。

本報では震災を契機に設立した地域交流団体の事例調査から発見した要因が今後予想される自然災害後のコミュニティ創出、維持へ向けた長期的な計画や活動の一助となることを目的とする。地域交流団体の活動は集落機能の維持に貢献するだけでなく、やむを得ず移転した世帯が集落に関わり続ける触媒となっている。また、長期的活動により単純な災害復興から農村振興へ活動の効果が変化しつつある。これらを踏まえ、事例調査から地域交流団体の長期的活動の要因を示す。現地調査は 2018 年 6～11 月に実施し、地域交流団体会員や参加者へ聞き取りを行うほか、イベントに参加した。

2. 地域交流団体の活動事例

新潟県小千谷市東山地区の山間に位置する S 集落は中越地震で甚大な被害を受けた。S 集落の世帯数は地震以前 2004 年 9 月時点で 51 世帯、地震後 2007 年 12 月時点では 21 世帯²⁾と防災集団移転促進事業も含め集落全体の半数以上が転出したことで急激に過疎が進行した。ボランティアの提案から交流施設「芒種庵（ぼうしゅあん）」（写真 1）の設置・管理を目的に 2005 年に芒種庵を作る会が発足し、2007 年に活動内容の変化から芒種庵を創る会に名前を新たにした。芒種庵は中越地震で転出した元集落住民が集落で休める場所を残



写真 1 芒種庵（2018 年 11 月 24 日撮影）
Bousyuan

*小千谷市役所 Ojiya City,

**新潟大学自然科学系 Institute of Science and Technology, Niigata University,
キーワード：地域交流団体，外部支援者，交流施設

したい、ボランティアに訪れた人にもう一度立ち寄って欲しいという思いから設置され、冬期を除いて開放されている。

芒種庵を創る会は、集落住民、元集落住民、外部支援者で構成されており役員のほとんどを元集落住民が担っている。この役員配置は元集落住民や外部支援者が参加しやすい環境づくりの一端を担っている。

主な活動内容は交流イベントの開催、芒種庵や慰霊碑の維持管理、被災地間交流にまとめられるが時間と共に活動は変化している。芒種庵を作る会では芒種庵の設立、絆 T シャツの販売を主な活動としていた。芒種庵を創る会となってからは交流イベントが行われている（表 1）。交流イベントは冬季を除いて月に 1 回程度行われて

おり、準備や片づけは集落住民、元集落住民、外部者が協力して行っている。芒種庵や集落内の慰霊碑の維持管理も担っている。芒種庵には元集落住民や外部者の休憩所としての利用があるだけでなく、芒種庵を創る会の拠点としての機能や震災復興資料館としての機能を備えている。芒種庵を作る会では被災地間交流も行われている。中越地震後、塩谷集落が復興に向かえたのはボランティアを含む外部者による支援の力が大きい。そのため、被災地への支援や交流が積極的に行われている。

3. 地域交流団体の活動事例に基づく長期的活動の要因

調査から地域交流団体が長期的活動を継続する要因として 3 点挙げられる。1 点目は外部支援者の長期に亘る関与、2 点目は開放型の交流施設の設置、3 点目は多岐に及ぶ柔軟な活動である。終わりのない復興に対し、団体で長期的に活動していくことは被災者が災害と向き合いながら前に進んでいくための 1 つの手段として有効だと考えられる。また、過疎化が進む中山間地域における集落維持に寄与する住民主体の交流活動にも前述した 3 点は重要であると思われる。

謝辞 芒種庵を創る会の皆様に多くの協力を頂戴しました。記して厚く御礼申し上げます。なお、本研究は文部科学省科学研究費補助金・課題 18H00923「大震災を経験した中山間地域における社会関係資本の長期的動向—日本・台湾の比較から—」（代表：澤村 明教授）での調査研究成果の一部である。

引用文献

- 1) 内閣府：3-01【05】応急仮設住宅の建設・入居、阪神・淡路大震災教訓情報資料集、http://www.bousai.go.jp/kyoiku/kyokun/hanshin_awaji/data/detail/pdf/3-1-5.pdf（参照 2018 年 12 月 3 日）
- 2) 内閣府：2004 年（平成 16 年）新潟県中越地震・小千谷市、災害復興対策事例集、http://www.bousai.go.jp/kaigirep/houkokusho/hukkousesaku/saigaitaiou/output_html_1/case200406.html（参照 2018 年 12 月 3 日）
- 3) 芒種庵を創る会：第 11 回総会より、<https://bousyuan.at.webry.info/201804/index.html>（参照：2018 年 12 月 20 日）

表 1 2018 年度の活動予定^{注 1)}、^{注 2)}

Activity schedule in FY2018		
時期	活動	非会員の参加
4 月	総会	
5 月	慰霊碑清掃作業	
	じゃがいも植え付け作業	
	芒種庵田・希田の田植え作業	○
7 月	懇親焼肉パーティー	○
	じゃがいも収穫祭	○
8 月	そばの種まき	
9 月	芒種庵田・希田の稲刈り作業	○
10 月	慰霊碑清掃作業	
11 月	そば打ち忘年会	○
	芒種庵雪囲い作業	
12~1 月	雪下ろし作業	
3 月	芒種庵日記の製本作業	
	総会案内状の送付	

注 1) 芒種庵を創る会³⁾と聞き取りをもとに作成。

注 2) 塩谷分校、自治会の行事は除く。